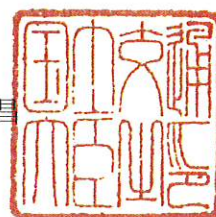


認 定 書

国住参建第 4321 号
令和 7 年 3 月 31 日

因幡電機産業株式会社
代表取締役社長 喜多 肇一 様

国土交通大臣 中野 洋昌



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 4 第 1 項第七号ハ（防火区画貫通部 1 時間遮炎性能）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
PS060WL-1320
2. 認定をした構造方法等の名称
排水管／化粧材付黒鉛含有ブチルゴムシート・セメントモルタル充てん／壁
耐火構造／貫通部分（中空壁を除く）
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：

排水管／化粧材付黒鉛含有ブチルゴムシート・セメントモルタル充てん／壁耐火構造／貫通部分
(中空壁を除く)

2. 寸法等の仕様：

寸法等の仕様を表1に示す。

表1 寸法等の仕様

項 目		仕 様
開口部	形状	円形(φ 200mm以下)
	面積	0.0315㎡以下
占積率 (開口面積に対する配管の断面積の割合)		60.5%以下
貫通する壁の構造等		鉄筋コンクリート造 厚さ 100mm以上

3. 主構成材料の仕様：

主構成材料の仕様を表2に、配管の仕様を表3に示す。

表2 主構成材料の仕様

項 目		仕 様	
熱膨張性 シート	材料	化粧材付黒鉛含有ブチルゴムシート	
	寸法	総厚さ：3.18(±0.1)mm以上 幅：45mm以上(埋設部45mm以上)	
	使用箇所	配管の両側に2周以上巻き付け(ただし、結露防止層付硬質塩化ビニル管の場合は、配管の両側に1周以上巻き付け) (突き合わせ又はオーバーラップ)	
	表面材 (充てん材側)	材料	①又は② ①ガラス繊維強化アルミニウム系テープ ②アルミニウム系テープ
		厚さ	0.18(±0.1)mm以下
	シート	材料	黒鉛含有ブチルゴムシート
		厚さ	3mm以上
		密度	
	裏面材 (配管側)	組成 (質量%)	
		材料	仕様：あり又はなし ①、②又は③ ①ポリオレフィン系フィルム ②ポリ塩化ビニル系フィルム ③ナイロン系フィルム
充てん材		厚さ	0.05mm以下
		材料	セメントモルタル
		組成 (質量%)	普通ポルトランドセメント 25 砂 75
		充てん量	配管と躯体(壁)との隙間に密に充てん(壁厚方向 100mm以上)

表3 配管の仕様

項 目		仕 様			
配管 (排水管)	硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K 6741、JIS K 6742、JIS K 6776) (記号：VP、HIVP、HT) (ただし、JISに規定する外径及び厚さ以外の管については、規定された要求性能を満足するもの)	外径	φ 140mm 以下	厚さ	7.5mm以下
	結露防止層付硬質塩化ビニル管 外層：塩化ビニルスキン層 中間層：塩化ビニル発泡層 内層：硬質塩化ビニル層		φ 89mm以下		10mm以下

4. 副構成材料の仕様：

副構成材料の仕様を表4に示す。

表4 副構成材料の仕様

項 目	仕 様	
粘着テープ	材料	仕様：あり又はなし ①～⑤の一 ①ポリオレフィン系 ②ポリエステル系 ③ポリ塩化ビニル系 ④紙 ⑤アルミニウム系
	寸法	厚さ：0.2mm以下、幅：50mm以下
	使用箇所	必要に応じて、熱膨張性シートの固定に使用

5. 構造説明図：

構造説明図を図1及び図2に示す。

単位 mm

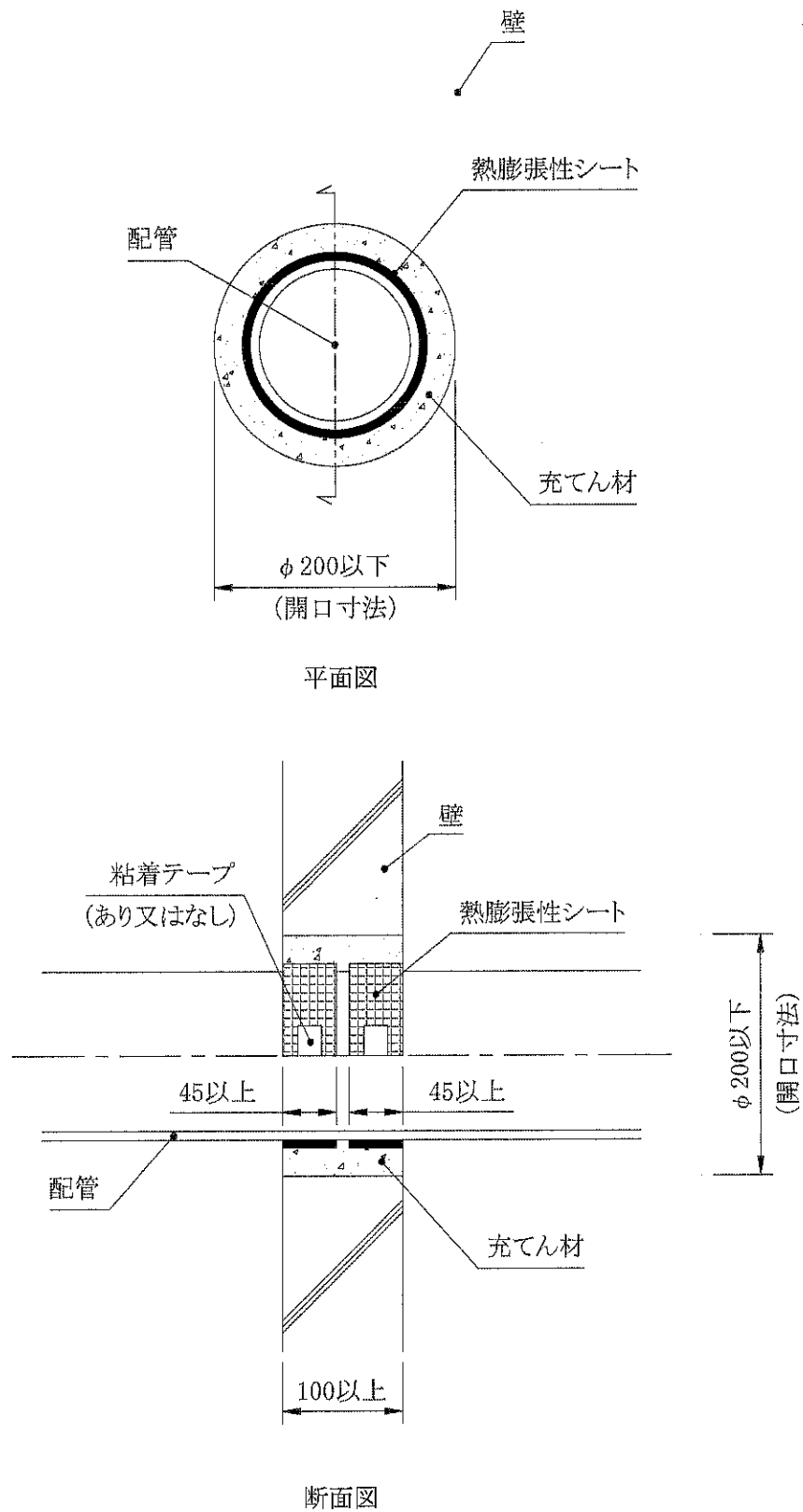
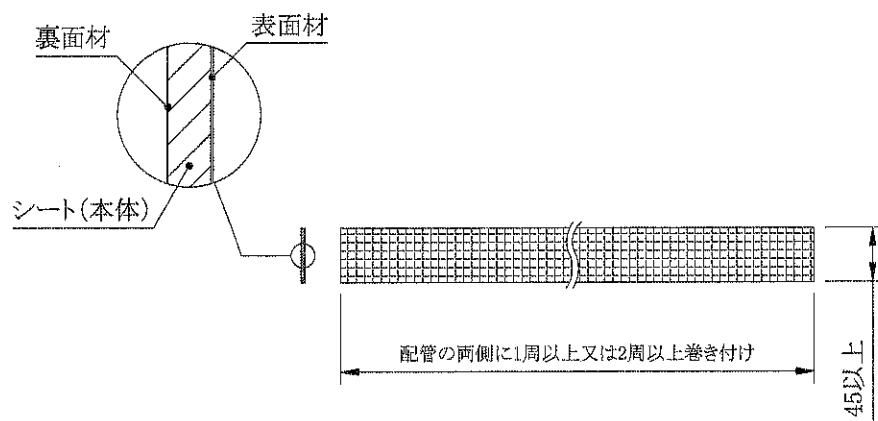


図1 構造説明図(施工図)

単位 mm



熱膨張性シート詳細図

図 2 構造説明図

6. 施工方法：

施工は以下の手順で行う。

- (1) 貫通開口部の設定
ボイド管やスリーブ、コアドリル等を用いて貫通孔を設ける。
- (2) 配管等の設置
配管等を設置して支持・固定する。
- (3) 熱膨張性シートの巻き付け
配管の両側に熱膨張性シートを2周以上巻き付け(ただし、結露防止層付硬質塩化ビニル管の場合は、配管の両側に1周以上巻き付け)(突き合わせ又はオーバーラップ)、必要に応じて粘着テープで、熱膨張性シートを固定する。
熱膨張性シートの長さが足りない場合、隙間が生じないように熱膨張性シートを2枚繋げても良い。
また、必要に応じて粘着テープで、熱膨張性シートを固定する。
(熱膨張性シートの接続箇所、巻き始め、巻き終わり3箇所以下)
- (4) 熱膨張性シートの設置
熱膨張性シートを45mm以上埋め戻すようにスライドさせる。
熱膨張性シートの幅が45mmを超える場合は、超えた分が壁からはみ出していても良い。
- (5) 充てん材の埋め戻し
配管と躯体の開口部の隙間に、充てん材を壁厚方向100mm以上密に充てんする。